

公立大学法人秋田公立美術大学の各事業年度に係る業務の実績に関する評価基準

平成 25 年 11 月 12 日
秋田市公立大学法人評価委員会

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第11条の規定および公立大学法人秋田公立美術大学の業務実績に係る評価基本方針（平成25年11月12日秋田市公立大学法人評価委員会決定）に基づき、公立大学法人秋田公立美術大学（以下「法人」という。）における各事業年度に係る業務の実績に関して行う評価については、以下の基準による。

1 評価の趣旨

各事業年度において、中期計画に掲げた各項目の実施状況の調査・分析結果を踏まえ、事業の実施状況、財務状況および法人のマネジメントの観点から、業務全体について総合的な評価を行うことにより、法人が行う業務運営の改善・充実に資する。

2 評価の実施

法人の評価は「項目別評価」と「全体評価」により行う。

(1) 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人は、様式 1 「公立大学法人秋田公立美術大学平成〇〇年度業務実績調書（以下「年度業務実績調書」という。）」の「項目別実施状況」に基づき、年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに自己評価を行う。

その際には、以下の 4 段階の区分により、その判断理由を付して、進捗状況进行评估する。

【評価基準】

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。

Ⅲ：年度計画を十分に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分に実施していない。

Ⅰ：年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による評価

評価委員会は、法人が行った自己評価の妥当性を検証し、法人と評価が異なる場合には、その理由等を示す。

こうしたことを踏まえ、中期計画の各項目の達成度合いを、定量的な観点と定性的な要因により総合的に確認し、「年度業務実績調書」の「項目別評価」における中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については中項目）ごとに、以下の5段階の区分により進捗状況を評価する。

【評価項目：中期目標大項目（一部中項目）】

- ① 大学の教育研究の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
- ② 大学の教育研究の質の向上に関する目標（学生への支援に関する目標）
- ③ 大学の教育研究の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
- ④ 大学の教育研究の質の向上に関する目標（社会貢献に関する目標）
- ⑤ 大学の教育研究の質の向上に関する目標（国際交流に関する目標）
- ⑥ 業務運営の改善および効率化に関する目標
- ⑦ 財務内容の改善に関する目標
- ⑧ 自己点検・評価および情報の提供に関する目標
- ⑨ その他業務運営に関する重要事項に関する目標

【評価基準】

S：特に優れた実績を上げている。

（評価委員会が特に認める場合）

A：年度計画を順調に実施している。

（評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ）

B：年度計画を概ね順調に実施している。

（評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上）

C：年度計画を十分には達成できていない。

（評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満）

D：業務の大幅な改善が必要である。

（評価委員会が特に認める場合）

※上記の評価基準は目安であり、社会情勢等の変化による遅れや、小項目の重要性を考慮する。

なお、法人の取組を社会に積極的にアピールすることや、法人全体の改善・充実を図る観点から、特筆すべき事項として、以下の事項等を考慮し、コメントを付す。

(ア) 中期目標における基本的な目標に掲げた4つの基本理念に基づく法人の取組を積極的に評価する。

- (イ) 大学経営の活性化等を目指した法人の特色ある取組を積極的に評価する。
- (ウ) 法人運営や教育研究活動を円滑に進めるための様々な工夫を積極的に評価する。
- (エ) 必要に応じ、改善すべき事項や目標設定の妥当性等の留意事項を記述する。
- (オ) 中期目標の達成に向けて支障が生じている、あるいは生じるおそれがある場合にはその理由等について明らかにする。

(2) 全体評価

全体評価は、「年度業務実績調書」の「全体評価」において実施することとし、項目別評価結果を踏まえ、事業の実施状況、財務状況および法人のマネジメントの観点から、法人の活動全体について定性的に評価する。

また、あわせて、中期計画の達成状況と、必要に応じて組織および業務運営に係る改善を要する事項等を付す。

3 その他

本基準は、必要に応じ、評価委員会で協議し、見直すことができるものとする。